



大阪活性化推進総研

ニュース

2016年1月1日
第9号

新年明けましておめでとうございます

この号の内容

- 1 落語寄席のご案内
- 2 講演&語りベシアターを開催しました
- 3 語りベシアター公演をみて
- 4 「宝塚山手やすらぎの道」コースに参加して
- 5 癒しのユーモア
- 6 O d i ゴルフを楽しむ会
- 7 編集後記

落語「朝から笑って！Odi 土曜元気寄席」のご案内

日時：2016年1月30日（土）
午前10時開演（9時30分開場）、12時終演予定
場所：天満天神繁昌亭（大阪市北区天神橋筋2丁目、TEL06-6352-4874）
出演者：笑福亭純瓶 桂三步 笑福亭生寿
料金：ODI特別料金1000円（一般前売り1500円・当日2000円）

天満天神繁昌亭との共催というODI初の試みです。

笑福亭純瓶さんは大阪府堺市生まれの52歳。笑福亭鶴瓶師匠の3番弟子で、今最も脂の乗っている上方落語家の一人。桂三步さんは桂三枝師匠（現6代目桂文枝）門下。創作落語も得意で、握りこぶしを口に入れるなどのギャグでおなじみです。

チケットをお求めの方はお名前、ご住所、郵便番号、電話番号を明記し、FAXかメールで下記にお申込み下さい。折り返しチケット引き換え証をお送りします。

（当日はこの引き換え証をご持参下さい。受付で特別料金をお支払いいただき、チケットと交換いたします）

FAX：072-761-0933（吉井）

Eメール：npo-odi@nifty.com

「講演&語りベシアター」を開催しました

秋たけなわの爽やかな日、中央電気倶楽部の5階大ホールには200名を超える満場のお客様が詰めかけられました。そこは葛野壯一郎設計により1930年に完成した伝統的建築物で、落ち着いたたたずまいを見せており、毎年来てくださるお客様には、この会場も魅力のひとつとなっています。

日時：2015年10月24日（土曜日）14:00～16:30
場所：中央電気倶楽部大ホール 大阪市北区堂島（06-6345-6351）

第1部 講演

「現代生物学・医学から“生きる”ということを考えてみる」

開 祐司 京都大学教授 再生医科学研究所 所長

大阪大学理学部出身で、「細胞生物学、骨・軟骨や腱・靭帯の形成・再生」が専門分野です。大阪大学歯学部助教授などを歴任ののち、現在、ノーベル賞などで最も世間の注目を集める分野の研究・教育に取り組んでおられます。



書かれた論文では「関節軟骨再生」や「心臓弁膜症の病因の解明」など、研究の進展が私たちを取り巻くさまざまな健康への不安について未来に期待や希望を抱かせるキーワードが並んでいます。

また、2007年には「ここまで来た再生医療」のテーマでNHKテレビ教育番組「サイエンス ZERO」に出演されるなど、専門知識の普及にも努められています。

当日は、下記の項目に沿った熱のこもる講演を拝聴しました。

- ・イントロ：自己紹介的に私の視点は？
- ・遺伝情報を担うDNA二重らせん構造の発見
- ・細胞は化学機関（Chemical Engine）である。
- ・私達の身体は、人間が作る機械とどう違うか？
- ・あなたは、進化史上初めて出現した後生殖期を一生の内にどう位置づけるか？

第2部 語りベシアター

語り/総合監修 栗本智代 ピアノ/音楽監督 宮川真由美
ヴァイオリン 西村恵一



今年初登場の「語りベシアター」。土地が織り成す話を発掘し「物語」として再生、伝承する。語りべが現代都市の神話をつむぎ、豊かで多様な表情を浮かび上がらせる……。大阪ガスでは、関西の歴史・文化、まちのエピソードなどを、語りと音楽、映像をまじえた独自の手法で楽しくわかりやすく伝えていく公演活動を展開しています。

今回取り上げるのはこの活動の初期、20年以上前から上演の近松門左衛門作「曾根崎心中」。ちょうど会場からほど近いところに現在も文楽や歌舞伎等で上演されるこの作品の舞台となる露天神、通称「お初天神」があります。

「曾根崎心中」が現実に関西に起こった心中事件がモデルになっていると言われていますが、心中の原因になった二貫文は現在ではいくらくらいなのか。なぜ二人は死ななければならなかったのか。あのお初天神までの死の道行きは、どういうコースだったのだろうか。名残りの鐘はどこに鐘だったのだろうか……。このような疑問がストーリーが進むにつれて、次々と解き明かされます。

来場の皆さんは、手元に配布された現代の地図と古地図を見比べながら、現実の大阪の場所と昔の話の場所が一致すると今までとは違った景色が見え始めるということに気づかれたことでしょう。



「語り部シアター」の公演を見て

伊井 八重子(大阪市)

「語り部シアター」の名前は、今回はじめて聞きました。実は、私、朗読が大好きで、もう14年ぐらい続けています。お話を聞いて頂き、異なった感想も、話し合うのが楽しいです。そんな感じの朗読で、「曾根崎心中」も暗記するほど読み込みましたが、素人には無理。ムリやなあ…と落ち込みました。

そんなこともあって、てっきり「曾根崎心中」の朗読が聞けると、楽しみにしていたのです。でも、いざ始まってみると、舞台正面のスクリーンには、道行の地図や、お話の舞台となったお初天神、当時の貨幣、寂滅為乗と響いた釣鐘、中央区の釣鐘屋敷跡の写真などが次々と映し出され、アレっ？と思いながらも、物語の背景がよくわかり、良かったと思います。

やがて画面が変わり、道行—この世のなごり、夜もなごり…に入り、「あー、ようやく近松門左衛門の世界にしばしひたれるのかナ」と、思いきや、栗本さんの声に交じって、チョイ役の西村恵一さんの男声も聞こえ、会場内は和んできました。

ただ、私の思っていた朗読会ではないことによりやく気がつきました。帰宅後すぐ、パソコンに向かい「大阪ガス語り部シアター」を検索して納得！

朗読ではなく、関西の活性化をめざす為に、楽しく、わかりやすく、関西の町を伝える公演を長年にわたって続けておられるとのこと。今回の出会いには、感謝です。



ただ、個人的希望ではありますが、こんどまた、大阪にまつわる名作を紹介される時があれば、ひととき作品に酔わせてほしいと思います。そして一転、現実の大阪にもどされる…。それもまた、聞き手には、何とも言えない心おどる一瞬でもあるからです。

大阪活性化総研のイベントは、毎回、楽しみにしています。大好きな大阪の町、街を、語ってくれる今回のような企画を、またぜひ、お願いします。

いい出合いを、ありがとうございました。

「宝塚山手やすらぎの道」コースに参加して

原 正樹

2015年11月12日(木)午前10時、阪急「中山観音」駅前に集合。小春日のよく晴れた道をぞろぞろ歩くと、すぐ中山寺の山門に着く。空には飛行機雲が筋を引いている。昔は山門の二階から海が見えたそう。「七五三詣り」と垂れ幕が下がっている。高台へあがると、柿の葉が彩づいて眩しい日射しにそよいでいる。

午前10時40分頃、ボランティアガイドさんと一旦別れて、いよいよ奥之院への道を登り始めた。ぼかぼかした日射しがあたたかい。道ばたに、山道を降りてきた人が杖がわりに使っていたものか、ちょうど手ごろな木の枝が立てかけてあったので、手に取って使わせてもらう。山の中腹の「夫婦岩園地」では、汗を拭きながら大阪の市街地を見はるかす。彼方には、二上山がはるかにかすんで見えた。

正午頃に奥之院へ到着。さすがに汗だくで、かなり運動したという気分。このきつい山道を、毎日早朝のぼったりおりたりしている人もいるそうだ。奥之院の紅葉はまだ三分というところ。木の根元のベンチにすわって昼食をとる。

蒼くまた紅くもみぢ葉こまごまと青空に透く星のかたちに

正樹

記念撮影をしてから午後1時に奥之院を出発。これから清荒神へ下るのだ。急な山道がしばらく続いてから広い道に出たので、これ以後は楽かと思えばなんと、また細い山道へ。ロープにすがって降りねばならない場所までであるサービスぶり。

お年の割に参加者はみんなお元気のように、「まだ、険しい場所あるんやろか」と不安そうに話し合う女性連れに、「お楽しみですね」と声をかけると、ドッと笑われる。民家の屋根とアスファルト道路が足もとに見えてきて、ほっと息をつく。

午後2時10分、清荒神清澄寺に到着。門を入れてすぐの場所にある樹齢400年という2本のイチョウ大樹は、まだ完全には黄葉しきっていなかった。ギンナンの実も、まだ落ちていないように思った。ところが、しばらくたって気づいたのだが、落ち葉を掃いているお坊さんのそばで、袋を手に持った1人のおじさんが、実を見つけるとすぐに拾っておられるのだった。ガイドさんに一通り案内してもらって、午後3時20分に境内にて解散。

癒しのユーモア

ODI参与 宮山正年



ODIの講演会は毎回素晴らしい講師をお招きしています。随分以前になります。ターミナルケアご専門の柏木哲夫先生の講演も印象に残るものでした。「癒しのユーモア、いのちの輝きを支えるケア」というご著書のエッセンスを盛り込んだお話で、人生におけるユーモアの重要性が主題でした。「ユーモアとは、にも拘わらず笑うことである」というドイツのユーモアの定義を紹介され、病の床にあるにも拘わらず柏木先生と川柳のやりとりをする患者さんのエピソードを語られました。心が和むお話に加え、自作・他作の川柳も多数披露され、会場を沸かせました。

川柳については門外漢でしたが、講演後興味を持ち、駄作を各所に投稿したり、大学OB会の川柳倶楽部に参加したりしました。関心を持ってみると、新聞、週刊誌、月刊誌には大抵川柳欄があるほか、商店街やショッピングセンターのイベント

川柳、有名な第一生命の「サラリーマン川柳」、有料老人ホーム協会の「シニア川柳」等々、世の中にこれ程川柳が溢れていたのかと驚きました。

日本人は性格が生真面目でユーモアが苦手だと言われます。過日ソフトバンクの孫正義氏が「髪の毛が後退しているのではない、私が前進しているのだ」と言ったことがかなり話題になりましたが、ことほど左様に日本では企業経営者のユーモアはもの珍しく報じられます。

しかし、川柳の入選作ともなると実に面白く、日本人にユーモア感覚が無いというのは間違っています。思うに、欧米ではユーモアはスピーチのスパイスであり、他人との親しい関係を作るための手段ですが、日本では堅苦しい場や初対面で人を笑わせようという発想がなく、親しい間柄の中で親密度を増す為に使われることが多い、という違いが大きいのでしょうか。

いずれにせよ、明るいニュースが少ない昨今だからこそ、人間にだけ与えられたユーモアと笑いを、ますます大切にしたいものです。

新聞に採用された自作川柳をご紹介します。拙稿を閉じます、と格好良くいきたかったのですが、生憎入選したためしがないため、収集した面白い川柳の中からいくつかをご披露させて頂くことにします。

- ・エアコンをつける積りがテレビつく
- ・後ろ前笑うお前は裏がえし
- ・検査あと妻の優しさ気にかかり
- ・部分痩せしたいところが大部分
- ・通帳に恥ずかしそうな利子2円
- ・パパ似だよ言われ泣き出すわが娘
- ・命懸けて惚れた女でこれかいな
- ・顔のしわ脳のしわとは反比例
- ・登校を渋る息子は現役教師
- ・パソコンが立ち上がったら凄いなあ

「O d i ゴルフを楽しむ会」



第6回O d i ゴルフを楽しむ会が、平成27年11月19日（木）茨木国際ゴルフ倶楽部にて開催され3組合計9名が参加されました。

曇り空ながらも快適な気候に恵まれ和気藹々として秋の1日、ゴルフを楽しみました。今回は新たに黒田弘子様、平岡扶美子が参加されました。今回は皆様のご意見で、全員ゴールド（女性は赤）マークからの競技になりました。お蔭で楽しさも一段とアップしたようです。

次回は今年6月に開催の予定です。振るってのご参加をお待ちしております。

（事務局 平岡宣夫 TEL:06-6850-0540、hiraoka-n2@tcct.zaq.ne.jp）

編集後記

清々しい新春をお迎えのことと存じます。去年は皆さまの積極的なご支援ご協力により活動の幅も少し広がりを見せてきました。今年はさらに前進していきたいと思えます。少子高齢化が益々進む中で、子供たちや高齢者の活躍を手助けしてちょっとでも大阪が活性化し元気になることを念じています。またここに会員様とイベント参加者からの貴重な提言やご意見をお待ちしています。

NPO 大阪活性化推進総研（ODI）

〒530-0005

大阪市北区中之島4-2-28

甲南アセット中之島ビル

TEL 070-5043-2507

E-mail npo-odi@nifty.com

URL <http://homepage2.nifty.com/Npo-Odi/>